



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 348号 2011.4.23 発行 社会政策研究所

震災復旧へ、1次補正予算案を閣議決定- 歳出規模 4兆 153 億円

キャリアブレイン 2011年4月22日

政府は4月22日、東日本大震災からの復旧に向けた今年度第1次補正予算案を閣議決定した。歳出規模は4兆153億円。厚生労働省分は7791億円（特別会計を含め1兆8407億円）が計上された。補正予算案は、28日に国会に提出される見通し。

厚労省分には、▽被災者の医療費や介護保険サービス利用料の自己負担額などの減免に1142億円▽医療施設などの復旧に906億円▽福祉医療機構による医療施設や介護施設などへの融資率の引き上げに100億円—などが計上された。

医療施設などの復旧については、公的医療機関に限り、施設整備への国庫補助率を現行の2分の1から3分の2に引き上げて対応する。また、施設整備への国庫補助率が現行2分の1の認知症高齢者グループホームなどは3分の2に、3分の1の介護老人保健施設（老健）などは2分の1にそれぞれ引き上げる。

また、救命救急センターや老健などが停電に備えて、自家発電設備を整備することに対し、119億円を充てて補助を行う。このほか、被災地での仮設診療所や仮設歯科診療所などの整備に14億円を、仮設住宅で高齢者のデイサービスなどを提供するサービス拠点の設置・運営費用などに98億円をそれぞれ計上した。

4月22日の枝野官房長官の会見より

【閣議】

「続いて、本日の閣議の概要について申し上げる。本日の閣議においては、一般案件として平成23年度一般会計補正予算第1号等について決定し、その内容について財務大臣から説明があった。その他、一般案件等4件、法律の公布、法律案、政令、人事が決定された。特に本日決定された法律案には行政機関の保有する情報の公開に関する法律等の一部を改正する法律案が含まれている。政権交代によって目指している一つの目標が、この情報公開の徹底であって、私もこの法律案を作り始めるスタートの段階では、行政刷新担当大臣として第1次案を枝野私案として提起した。様々な調整の結果、おおむねその線に沿って法律案として閣議決定し、国会に提出することに至った。ぜひ早い段階で情報公開のさらなる徹底にむけた法改正が進むことを期待している。また本日、閣議決定した法律案には障害者基本法の一部を改正する法律案がある。障害者施策の推進について、関係者の皆さんからまだまだという声もあるが、特に今回、我が国の法制上初めて、隣で手話通訳も頂いているが、手話を言語として法律上位置づけるということに踏み込むことができた。大きな前進だと考えている」

「最後に、本日の閣議前に開催された経済情勢に関する検討会合について若干の報告をする。震災のマクロ経済への影響、マクロ経済の実態を踏まえ、どのような経済財政運営が必要かを議論した。記者の皆さまは承知と思うが、総理からは次回会合において玄葉大

臣と与謝野大臣が協力して政策推進のための全体指針をとりまとめるよう指示があった。会合の詳細については、すでに与謝野大臣から記者の皆さんには報告があったと承知している」

マスコットキャラ決定 タヌキがベース 市の花もヒントに 木更津自立支援協募集

千葉日報 2011年4月22日



決定したマスコットキャラクター

木更津市地域自立支援協議会（鳥飼博会長）が募集していたマスコットキャラクターが決まり、木更津市民総合福祉会館で20日、入選者の表彰式が行われた。

同協議会は、障害者とその保護者が地域で自立した生活を送れるよう関係機関が協力し支援する組織。活動のPRに役立てようと、このほどマスコットのデザインを募集、市内外から324点が寄せられていた。

審査の結果、優秀賞には大阪市のグラフィックデザイナー、塩崎まさよさん（36）の作品が選ばれた。「証城寺のたぬきばやし」のタヌキをベースに、頭には市の花・サツキを、ヘソには連携やつながりをイメージさせる「∞（無限大）」マークを取り入れた。

発達障害、寄り添って NPO三重支部 成長に合わせ支援

朝日新聞 2011年4月22日

自閉症の浜野千聡さん（左）も、発達障害児の学習をサポートしていた＝四日市市諏訪町

発達障害者を支援する「NPO法人アスペ・エルデの会」（名古屋市）の三重県支部「ピカリン」が、「発達障害への理解を深めてほしい」と活動している。支援者を確保し、障害者の成長に合わせたサポートを続けるのが目標だ。

今月16日、ピカリンが四日市市で開いた学習会に参加した4人のうち、小学4年の男児は、コミュニケーションや対人関係が苦手なアスペルガー症候群だ。

男児は国語のドリルをしていたが、突然、ノートに絵を描き始めた。「絵、描くの」と、スタッフでカウンセラーの鈴木美穂さん（27）が聞いても、目を合わせない。

「うわあ、かわいいね」。5色のサインペンを使った人形の絵が仕上がるのを待って、鈴木さんがほめると、男児は満面の笑みで何回も手をたたいた。

スタッフ4年目の鈴木さんは「こちらが手探りの状態で対応すると、子どもの主張や思いが伝わらず、苦しい思いをさせてしまう」と難しさを指摘する。

アスペ・エルデの会は1992年に発足。小学生の会員がゲームのキャラクターからとって名付けた「ピカリン」は、99年から活動を始め、現在の会員は小学生や大学生など8人。臨床発達心理士と言語聴覚士など11人のスタッフが支援する。

独自のプログラムを組んだ学習会を月1回開くほか、コミュニケーション技術を磨く練習、親の勉強会などを続けている。

学習会では、それぞれの子どもに、毎回同じボランティアが寄り添う。信頼関係を築いて子どもの変化や発言に気を配り、親に様子を伝える。

だが、発達障害への理解は十分ではない。言語聴覚士の新谷（しんたに）麻衣さん（3



3)は「親の育て方が原因と言う人もいる」と話す。

スタッフの浜野芳美さん(51)も偏見に苦しんだ。自閉症の長女・千聡さん(19)は小学5年の時に会に入り、同じ障害を持つ同級生の友人ができ、今では積極的に人と関わる。

作業所でタオルをたたむ仕事をしながら学習会に参加し、子どもの勉強を見守りながら、手助けもする。「本人はやりがいを持って来ています」と芳美さん。

新谷さんは「周囲が、障害の特徴やコミュニケーションのコツを少し知っていると、人間関係が円滑になるかもしれない」と話す。

ピカリンでは、学習会のボランティアを募集していて、学習会に参加しながら会のセミナーなどを受講すれば、2年で初級発達障害支援員の資格が得られる。

23日午後1時から、四日市市総合会館で説明会がある。問い合わせは同会のホームページ(<http://www.as-japan.jp/pikarin/index.html>)へ。(円山史)



発達障害 先天的な脳機能障害。知的障害や、コミュニケーションの障害などがある自閉症、自閉症と似た特徴があるアスペルガー症候群、読み書きや計算などの一部が困難な学習障害、注意や集中が困難で衝動性がある注意欠陥多動性障害などが含まれる。

原発キーワード「コウナゴ」

よみうりテレビ 2011年4月21日

原子力発電所に関する報道、水や食物などへの影響に関する報道の中で、わかりにくい言葉や気になる情報を毎回1つピックアップし、日本テレビ報道局の担当記者が解説する「原発キーワード」。21日は、「コウナゴ」について鈴木杏奈記者が解説する。

政府は20日、福島県で水揚げされたコウナゴについて、国の暫定規制値を超える放射性物質が検出されたことから、摂取制限と出荷制限を福島県知事に指示したことを明らかにした。コウナゴからは、茨城県でも放射性物質が検出されていたが、なぜコウナゴばかりから放射性物質が検出されるのだろうか。

コウナゴは今、旬を迎えている。これに加え、福島県から茨城県にかけてたくさんとれるいい漁場という事情がある。これまでに基準値を超える放射性物質が検出されているのは、福島・いわき市沖で取れたコウナゴと茨城・北茨城市沖で取れたコウナゴ。いずれも、検出されて間もなくコウナゴの出荷は自粛されたので、市場には出回っていない。

一方で、これより南の茨城・ひたちなか市、千葉県の銚子市や勝浦市などでも、様々な水産物のサンプル調査が何度も行われているが、コウナゴから基準を上回る放射性物質は検出されていない。

地域によって違いが出る主な理由は2つある。1つ目は「福島第一原発からの距離」。この時期の太平洋側の海流は、北から流れてくる親潮と南から流れてくる黒潮が茨城県沖でぶつかって混ざり、東に流れている。福島第一原発から大気中に放出された放射性物質がどこまで飛散しているのかは正確にわかっていないが、汚染された海水は千葉県より南には流れにくいことがわかる。

2つ目の理由は「魚が泳いでいる深さ」。福島第一原発に近い北茨城市でも、ヤリイカやアナゴなどコウナゴ以外の魚は基準値を超えていない。コウナゴは水深4~5メートルの浅い場所を泳いでいるのに対し、ヤリイカやアナゴは水深100メートル以上と深い場所を泳いでいる。このため、最初に影響を受けてしまうのは、どうしても浅い場所を泳いでいるコウナゴのような魚になってしまう。

放射性物質は時間の経過とともに沈んでいくが、沈むと同時に拡散されていくので、深い所を泳いでいる魚にほとんど影響はないとみる専門家が多い。実際、文科省が行っている最近の海水のサンプル調査でも、水深が浅い所で放射性物質の濃度が高いことが確認されている。

消費者側への影響の他、漁業に携わる人たちへの影響も大きい。福島県では、港が津波の被害を受けている上、福島第一原発からの距離がとて近いため、すべての漁が見合わされている。茨城県では、復旧した一部の港で漁が再開されたが、茨城県沖や千葉県沖というだけで市場で値がつかなくなったり、値がついても採算ラインを下回る低い値段になったりしている。サンプル調査の結果では、コウナゴ以外の魚は問題がないことが確認されており、偏見を持つことなく、こうした風評被害を抑えたいものだ。

「売れない」というのも大変な問題だが、何よりも原発の事故を収束させて一日も早く通常の漁に戻れることが望まれる。

河北抄

河北新報 2011年4月22日

最近のテレビCMで、故坂本九さんが歌った『見上げてごらん夜の星を』を、歌手や女優らがリレーで歌っている。<小さな光が／ささやかな幸せをうたってる>。懐かしい歌詞とメロディーに、震災で疲れた心がほぐれていく。

「星が嫌いな人はいない。夜空を眺めるときっと誰もが癒やされるでしょう」。こう話すのは、仙台市天文台（青葉区錦ヶ丘）のスタッフ松下真人さん（31）だ。プラネタリウムを担当する。

地震の影響で休館していたが、先日再開した。大きな損傷はなかったものの、水道などのライフラインがストップ。機器類の点検にも時間がかかった。

入館者の「待ち遠しかった」の声が「心に染みました」と松下さん。「プラネタリウムをご覧になった後は、ぜひ外に出て夜空の星を見てほしい」

今の時季は北斗七星がお薦め。年中見ることができるが、ややかすんだ春の夜空にくっきり浮かぶ。「七つ星のひしゃくから、花の香りがこぼれてきそう」と言った人がいた。晴れた宵には、夜桜と同時に楽しめる。星と桜が、ささやかな幸せを歌ってくれる。

河北春秋

<凶事（まがごと）はわれらすべての負ふものぞ殊にも電気をもてあそびしわれら>。歌人の水原紫苑さん（横浜市）は、福島第1原発事故の責任が、電気を一方的に享受してきた首都圏住人にもあると歌う▼原発事故などの影響で、他都道府県に避難している福島県民は約3万人。疲れ切った避難者を他県の人たちが温かく迎え入れている。事故を人ごととせず、自然に手を差し伸べてくれるのがうれしい

▼悲しいニュースもある。福島県から茨城県つくば市に避難した人に、市が放射線スクリーニング検査受診を証明する書類の提出を求めたという。福島県の子どもが「放射能がついている」といじめられたケースも▼放射能への不安が一部の差別的対応を引き起こしているのだろう。原発事故に関する政府のこれまでの説明は確かに分かりにくい。だが、避難民を特別視する理由にはならない

▼福島は美しい。津波に襲われたが浜通りは多彩な海岸線を持ち、中通りにはリンゴやモモなどの果物が実り、会津には周囲の山が蓄えた清らかな水が流れる。県民は義理堅い▼原発事故だけでなく、そんな良き福島県も多くの人に知ってほしい。差別は差別を生むが、優しさは優しさを生む。避難した土地で心からの支援を受けた福島の人たちは長い年月をかけて恩に答えるはずだ。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行